



川崎市議

吉沢章子

案

議

員

提

よしざわ・あきこ
1964年川崎市生まれ。菊竹清訓建築設計事務所を経て独立。03年自民党初の女性川崎市議として初当選。一級建築士。高校3年と1年の2児の母。

輝く未来を子どもたちに 政策を提言し実現へ 政治家はクリエーター

私のキャッチフレーズである。20世紀「右肩上がり・物質偏重の時代」から、21世紀「持続可能な・心の時代」へと価値観が変化した。言い換えれば、進化した。世界も日本も大きな潮流の中で進化を余儀なくされている。政権交代も日本の民主主義が成熟するための進化のプロセスであると考ええる。

「子どもは未来そのもの」であるが、子どもたちにこの地球を、日本を、禍根なく手渡してゆくために、政治は何をすべきかを考え、一つのコンセプトに達した。それは、CSRの考え方を全施策に反

映することである。企業の社会的責任と訳されるが、私は、「C」は、CITIZEN・CITY・CUNTRYでもあると考え、市民、自治体、国が、社会的責任を果たすことが必要不可欠であると考えた。まっとうな人がまっとうに評価される仕組みづくりが、政治のなすべきことであると思う。

川崎市の入札制度に「主観評価項目制度」を取り入れ、社会貢献にポイント加算することを提案し2年がかりで実現した。建築物環境評価制度・CASBEの川崎版を提案、ミシユランのように☆印で評価し付加価値として建物の販売に寄与するなどを実現してきた。地球温暖化対策条例も3年前から提言し、ようやく先の議会で議決した。提案し実現する。政治家はクリエーターであると考え。だが、行政に「やれやれ」と

言うばかりではなく、自ら行動したいと思ひ、昨年、地元商店街の夏祭りにリユース食器を使うことを提言して、一緒に取り組んだ。

「100円上乗せしてコップ返却時に100円を返すのは面倒だ。ビールが売れなかつたらどうするんだ」と反発された一方で、「ごみ減量になる。イメージアップにもなる」との声もあった。当日は友人や後援会の方々にボランティアをしていただき、結果は大成功だった。入れ墨をしたお父さんが息子にリユース食器を指さして「これが、エコだ」と言い、品の良い女性からは「良いことをされていきますね」と声をかけられた、などうれしい報告がたくさんあった。大反対だった居酒屋のご主人が、最後に「よかつたな」と言ってくださった時には涙が出そうになった。今年は、商店街から「ぜ

ひやりたいから協力してほしい」と、逆にオファーがきた。うれしい限りである。

政治は常に現場に立たなければならぬと思う。ともに涙し、ともに笑い、はじめて物事の本質が見えてくると感じる。そして、いざ政策を構築するときは、涙も笑顔も包含して全体を俯瞰し、大きなビジョンと明快なコンセプトのもとに「持続可能な」ルールを決めてゆかなければならないと信じ、行動している。

先日、菊竹清訓先生にお会いした。御年80歳である。「地域に立ち、地域に根ざし、地域の声を聞く」。生き生きとそうおっしゃった。世界的建築家にしてなお「虫の目」である。私は師と仰ぐ方と同時代に生きていく幸せをかみしめつつ、今日も政治家として活動している。